



からし種

春

第 89 号

今号の主なラインナップ

- ◇ P.2-3 多様性の国インド、聖書翻訳の現状と展望
- ◇ P.4 ウクライナ特別支援／UBS 80 周年
- ◇ P.5 UBS ニュースから
- ◇ P.6 新約聖書の日本手話訳完成に向けて
- ◇ P.7 クリスマスセレブレーション報告
- ◇ P.8 イースタープレゼントクイズ、新入会員紹介、募金部から

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

これこそ、キリスト・イエスにおいて 神があなたがたに望んでおられることです。

—テサロニケの信徒への手紙— 5章16～18節— (聖書協会共同訳)



“いつも” “絶えず” “どんなことにも”

清泉女子大学名誉教授 カトリック聖心侍女修道会シスター

しおや じゅん こ
塩谷 惇子



パウロのテサロニケの信徒への第一の手紙は新約聖書の中で最も古く、おそらく 52 年か 53 年頃に書かれたものと大方の聖書学者たちは推定しているようです。イエスに従う者たちをユダヤ教の異端者として迫害したパウロが、突然、落馬して、復活のイエスに出会い、異邦人の使徒としての使命を受けてから 20 年になるかならないかの頃でしょうか。

上記の聖句はカトリックの典礼でよく歌われる聖歌の一つですが、私の心に特に深く刻まれたのは、ある卒業生とのかかわりからでした。元気にさまざまな奉仕活動をしていた彼女は何か体に不調を感じ、めったに行かない病院に行くと、突然、あと 1 カ月の命かもしれないと癌の告知を受けたのです。……死が近いことを知った彼女は、近親のことを思いやりながらも、自分の葬儀のために準備を始めました。私は彼女から葬儀の参列者に配るカードの作成を頼まれ、どの聖句にしたいかと聞くと、このテサロニケの信徒への第一の手紙の聖句をと言ってきたのです。

受洗は 50 歳、帰天は 60 歳でした。信者としての 10 年間の間に、彼女の心に深く刻まれていた聖句だったからこそ、あのような淡々とした奉仕活動ができたのだと思うのです。人付き合いが上手で明るいタイプではなかったと思われる彼女の心にしっかりとみことばが根付き、いつも喜び、祈り、どんなことにも感謝して前向きに生きることができたのでしょう。若い時には、仲間外れにされたり、つらいことがあったと聞いていますが、イエス・キリストのことばがしっかりと心に植え付けられたので、神様のふところにまっすぐ向かってゆかれたのだと思います。

パウロが考えられないほどの迫害、苦しみにも逢いながらも、神様が望んでおられる道を歩み通し、全世界に福音を告げる使命を全うできたのも、イエス・キリストがいつもパウロと共に働いていたからでしょう。

★喜び ★祈り ★感謝

「多様性の国インド、聖書翻訳の現状と展望」

日本聖書協会総主事 具志堅 聖

はじめに

2026年2月、インド南部のベンガルール市で開催された「第29回トリエンニアル中央評議会(29th Triennial Central Council)」に出席しました。この会議は、インド聖書協会(Bible Society of India、以下BSI)が3年に一度開催するいわゆる総会です。会場には、インド各地の教会代表者、BSIの各支社代表団、職員、そして海外からの来賓など100名超が参集しました。2日間の協議を通じ、世界最大規模の聖書協会の現状と、多様性に満ちたインドにおける宣教の課題を改めて知ることができました。



UBSとアジア聖書協会関係者

インドにおける宗教と言語の多様性

インドは人口約14.7億人を抱える世界最多人口の国家です。宗教はヒンズー教が主体ですが、キリスト教徒も人口の約10%（約1.4億人以上）に達しており、その数は極めて大きいものです。広大な国土には1,600以上の言語や方言が存在するとされ、この多様な言語・文化圏へいかに正確に福音を届けるかが、BSIの活動の核心となっています。

BSIの歴史と組織構造

BSIは1811年にカルカッタで英国聖書協会(British and Foreign Bible Society、BFBS)の支社として発足しました。1969年に現在の独立した形となり、現在は国内17の支社(Auxiliary)を配置しています。各支社が5,000万人を超える人々と地域を射程に入れた活動を行っています。中央事務所(Central Office)のRev. and Dr. Kavito G. Zhimo総主事が全体を統括しています。BSIは聖書協会世界連盟(UBS)内でも最大規模の聖書協会であり、一つの巨大企業に匹敵する運営体制を敷いています。



BSI オフィス

聖書翻訳の現状と将来目標(ロードマップ)

今回の中央評議会では、聖書翻訳の進捗状況と、2036年に向けた聖書翻訳ロードマップなどが示されました。



17の支社の主事とUBS来賓団との交流会

●翻訳の現状

一般的にインドでおもに会話で使われているのはヒンディー語と英語ですが、国内では1,721言語（主要言語122、その他1,599）が使われているとのこと。現在BSIは175言語で聖書（全巻86言語、新約のみ88言語）を提供しています。また、視覚障がい者のための点字聖書も23言語で提供されています。現在も、他団体との提携を含め127の翻訳プロジェクトが進行中です。

●「ロードマップ2036」への挑戦

BSIは設立225周年を迎える2036年までに、計225のインド諸言語で聖書翻訳を完成させるという歴史的な目標を掲げています。とてもチャレンジングな目標に驚きました。

●デジタルとマルチメディアへの展開

「言語の壁」だけでなく「識字の壁」を超えるため、オーディオ版聖書（現在95言語）の拡充や、デジタル聖書ライブラリへの登録、さらには手話訳聖書の開発など、テクノロジーを活用したアクセシビリティの向上を急いでいます。

第29回中央評議会における組織改革

今回の中央評議会では、聖書翻訳の現状や活動報告に始まり、財政健全化活動の報告と提案、組織の改変、政府指導による「BSIの定款や規則の改正」などが協議されました。Zhimo総主事は積み残されていたBSIの改革を3年間かけて行い、次の3年間に向けた強固な基盤が構築されたとのこと。

基本方針「3つの壁」の打破

BSIは、聖書普及における言語・経済・物理的な壁を取り払うために「3A」方針を貫いています。それは、

- ①人々が理解できる言葉で (Available)、
 - ②貧富を問わない、無理のない価格で (Affordable)、
 - ③点字やオーディオ、デジタルなど誰もが使いやすい形式で (Accessible)
- 聖書を届けるというものです。

最後に

今回の訪問により、BSIが世界で最も多様性に富んだインド社会において、不変の福音を届けるために、いかに革新的で組織的な努力を続けているかがよくわかりました。2036年の目標達成に向けたBSIの歩みは、私たち日本聖書協会にとっても大きな刺激と示唆を与えてくれるものでした。

主に栄光あれ。

戦争 4 年目のウクライナ：聖書がもたらす癒しと希望

ウクライナでは、ロシアによる全面侵攻から 4 年が過ぎ、戦争は人々の心と生活に深い影響を与え続けています。死傷者の増加、長期避難、家族の離別、慢性的な不安と喪失感。こうした中で、教会は数少ない安定した支えとなり、その中心で働くのがウクライナ聖書協会です。彼らは、聖書と心のケアを届ける働きを、危険の中でも休むことなく続けています。

侵攻開始以来、同協会は約 160 万冊の聖書を配布してきました。これは 1 日あたり約 1,000 冊に相当します。2026 年も 30～40 万冊の配布を目標に掲げています。戦争が長期化する中で、聖書を求める声はむしろ増えています。家族を失った人、行方不明者を待つ家族、前線に立つ兵士の家族——多くの人が、意味と希望を求めて教会の扉を叩いています。

特に子どもと若者のニーズは急増しています。避難や喪失を経験した子どもたちにとって、絵入り聖書や物語は心の支えとなり、未来への力となります。また、同協会は侵攻からわずか 6 週間後にトラウマ・ヒーリングを開始し、これまでに 6,380 人が受講しました。心の傷は継続的なケアが不可欠です。

戦争のただ中で、聖書が家族を支えた証しも届いています。ハルキウのテティアナは、子どもと共に受け取った絵入り聖書を通して、恐れの中に平安を見いだしました。祈りと聖書が彼女を支え、ついには洗礼へと導かれました。

ウクライナ聖書協会の働きは、今も危険と困難の中で続いています。日本からの祈りとご支援は、戦時下にある人々へ希望を届ける大きな力となります。私たち日本聖書協会は、この働きを共に支え続けたいと願っています。



ありがとう、80 年。
これからも続く、
UBS の使命。

聖書協会世界連盟（UBS）は、第二次世界大戦直後の 1946 年、「すべての人が、自分の理解できる言語と形で聖書に触れられるべきだ」という思いを共有した 13 の聖書協会の集まりから始まりました。2026 年、UBS はこの使命を担い続けて 80 周年を迎えます。現在、156 の聖書協会が 240 以上の国と地域で協力し、翻訳・出版・配布に加え、デジタル、音声、点字、手話、識字教育、トラウマケアなど多様な働きを展開しています。UBS は世界の全訳聖書の 70% 以上に関わり、60 億人以上が母語で聖書に触れられるようになっていきます。使命はまだ続いています。すべての人が神のことばに出会えるその日を目指して、歩みを進めてまいります。

AI 時代の聖書読解に潜む課題

— 英国聖書協会の最新研究より —

聖書の疑問を AI に尋ねることが当たり前になりつつあります。便利で親しみやすい一方、英国聖書協会（BFBS）が行った最新研究は、AI が示す聖書理解には注意が必要だと指摘しています。研究では五つの聖書 AI に神学的な質問を投げかけ、その答えを分析しました。その結果、多くの回答が分かりやすく牧会的である一方、神学的な視野が米国の福音派的な考え方に寄っており、カトリックや正教会など、長い歴史の中で育まれてきた聖書解釈がほとんど示されていないことが分かりました。一部の AI は「寄り添う牧師」のような語り口で回答し、利用者が AI を霊的指導者のように受け止めてしまう危険性も指摘されています。利用者が自分で聖書と向き合い、考える姿勢が弱まる可能性もあります。BFBS は、AI が避けて通れない存在



となった今こそ、利用者が多様な視点に触れられる仕組みと、どのように答えが作られているかという透明性を大切にしながら、慎重に AI を用いる姿勢が求められると呼びかけています。

〔注〕本研究で参照された AI チャットボットは、Bible GPT、Bible Chat、Cross Talk、Biblia Chat、ChatGPT の 5 種類。

ローマ教皇、移民のための特別な聖書を受け取られる

— ひとり一人の歩みに寄り添う「ミグレーション・バイブル」

2026 年 1 月 21 日、ローマ教皇レオ 14 世が「ミグレーション・バイブル」を受け取られました。移民と共につくられた特別な聖書で、オランダ移民教会連合（SKIN）のロインデ・ドス牧師が献呈しました。湾岸諸国ではすでに約 4,000 冊が移民労働者に届けられ、移民一人ひとりの姿を紹介する「ポートレート」や、日々を支える読書プランが喜ばれています。

今回贈られた版には旧約聖書続編が加えられ、中東で働くカトリック系移民にも読んでもらえるよう工夫されています。アブラハムやルツなど、旅を続けた聖書の人物の物語と現代の移民の歩みを重ね合わせ、「あなたの旅にも神の導きがある」と静かに語りかけてくれる一冊です。



新約聖書の日本手話訳完成に向けて

JSL Bible (一般社団法人日本ろう福音協会)

広報担当 **安達 そら**

聖書の日本手話翻訳を始めて33年、JSL Bible は一つの節目を迎えています。

昨年末「ヨシュア記」13-24章の日本手話訳公開をもって旧約聖書の翻訳はいったん休止し、現在は新約聖書の日本手話訳完成に集中しています。2032年を目標に、新約聖書すべてを日本手話でご覧いただけるようラストスパートをかけています。(右図参照)

日本手話への翻訳ならではのハードル

現在、三つの翻訳プロジェクトが進行中です。

「ヘブライ人への手紙」はろう者コミュニティによる理解評価の段階にあります。旧約聖書の人物が多く登場しますが、旧約の日本手話訳がまだ一部のため“手話名”が決まっていない人物がいます。翻訳チームは旧約聖書を研究し、「手話名選定委員会」で手話名を決定していく必要があります。

「ヨハネの黙示録」1-5章は現在下訳の修正を進めています。例えば1章12-13節の「七つの金の燭台」と「中央」という表現は、日本手話では空間表現が重要なため、配置が分らないと正確に表現できません。仮に円形に並ぶと表すとそのイメージで理解が固定されてしまうため、研究と調査を重ねながら翻訳を進めています。

「コリントの信徒への手紙一」8-16章では翻訳初心者が手話表出を担当しているため経験者

が手話チェック者として加わっています。釈義担当者も海外団体から派遣され日本手話のプロジェクトに初めて関わる方のため時間を要しますが、若い世代を育てる機会にもなっています。

ろう者の方が新約聖書の御言葉を自分の言語で受け取り、神様から直接語りかけられる日を目指し、この働きは続いています。どうかお祈りに覚えていただき、お心に示された方はご支援くだされば幸いです。

「ヘブライ人への手紙」の翻訳の様子



クリスマスセレブレーションを開催しました

2025年度の日本聖書協会クリスマス礼拝が、2025年12月5日（金）に日本キリスト教団渋谷教会を会場に、二部構成で行われました。第一部は恒例の礼拝で15時開始。礼拝後に休憩を入れて、第二部が17時30分から、セレブレーションという名のチャリティーコンサートでした。

このセレブレーションは、聖書普及を祈り支えてくださる首都圏在住の方々に呼びかけ、日本における聖書普及事業開始150年を感謝する最後の記念イベントでした。

出演は、いずれも21世紀に入ってから聖書協会の催事で音楽ゲストを引き受けてくださるなど、ご協力いただいた陣内大蔵、Migiwa、そして久米小百合のお三方です。とりわけ久米さんは、2007年3月から三年間、日本聖書協会親善大使として様々な企画に参加されました。今回のお三方との交渉と、当日の音響の手配はライフ・クリエイション（いのちのことば社）にご協力いただきました。



当日の渋谷教会



左から陣内大蔵、久米小百合、Migiwaのお三方

参加人数はスタッフ含め170名と幾分こじんまりした中でしたが、心地よい響きと相まって、心に沁み透るようなキャロルや持ち歌そして詩の朗読、3人揃っての軽快なトークも味わえました。ご参加いただいた皆様にとってクリスマスの喜びと希望、聖書からの恵みを感じつつ、150年の歩みに思いを馳せる、感謝のひとつときとなったなら幸いです。

礼拝とセレブレーションを通して捧げられた246,120円の献金は、当日アピールされた海外の聖書普及事業および日本の手話訳聖書

支援、点字聖書の製作と頒布の支援に用いられます。

このセレブレーションのダイジェスト動画を、日本聖書協会のYouTubeチャンネルでご覧いただけます。



聖書協会クリスマスセレブレーション・ダイジェストへ



皆様と記念撮影

イースター特別プレゼントクイズ

問題

- 1) 新約聖書によれば、使徒パウロはどのようにキリストを信じるようになったのでしょうか？
答えは一言「___の___と___から」で。(ヒント：本誌 P.1 をご覧ください) 根拠となる聖書の箇所も添えてください。
- 2) パウロはそれは何によるもので、パウロが何をするためにだと述べていますか？
(ヒント：ガラテヤの信徒への手紙をご覧ください)

正解された方の中から抽選で、『日々の黙想 今ここに気付く 150 の祈りと瞑想』(アイリーン・クレイゲル著) を 10 名様にプレゼントいたします！

※応募方法

クイズの答え、お名前と会員番号、電話番号をご明記の上、募金部宛(下記) お葉書か FAX、E メールでお申し込みください。
締め切りは 4 月末日(木) 必着、プレゼントの発送をもって発表に代えさせていただきます。



◎ 2025 年 10 月から 26 年 2 月末までの新入会員のご紹介 (ご入会順、敬称略)

後藤 浩昭 山崎 絹 大原 しの 高橋 勇樹 一柳 恵子 丸山 富美子 松井 隆子
比嘉 里菜 比嘉 若菜 宮本 道 小寺 ゆり子 遠藤 和子 黒沼 敦子 滝藤 恵美

以上 14 名の皆様、ご入会ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

募金部から

春の陽ざしがまばゆい頃、主のご復活の喜びに包まれます。しかし、今日もこの地上では戦渦に巻き込まれ喘ぎ苦しむ人々が後を絶ちません。イラン・イスラエル間の軍事衝突を中心に中東全域で緊張が急激に高まる中、各国の聖書協会が深刻な影響を受けています。UBS を通じて、イスラエル、在外イラン人、レバノン、パレスチナ、湾岸地域各聖書協会から被害の状況が伝えられ、緊急支援・祈りの要請がありました。遠く離れた地にある私達に何ができるのでしょうか。事態の収束と巻き込まれた人々のために祈り、共に支援の輪を広げていくことです。そしていずれ停戦に至ったとしても、ウクライナで今まさにそのことが明らかなように、人々の受けた傷を真に癒せるのは主のみことばのみです。復活されたイエスの枝に繋がる私たちは、この福音—よき知らせ—をひとりでも多くの方に届ける活動を続けてまいりましょう。

今号では昨年 12 月に開催いたしましたクリスマスセレブレーションのご報告も掲載いたしました。このセレブレーションで歌われた陣内大蔵先生は前号の巻頭聖句とメッセージを担当してくださいました牧師、教師でありミュージシャンです。先生含むお三方が公の場で一緒に歌われるのは初めてだったそう。今後にも期待いたします。(募金部主事補 森脇)

JAPAN BIBLE SOCIETY
 一般財団法人 日本聖書協会 募金部



〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1 Tel: 03-3567-1980 Fax: 03-3567-4436

E メール: fund-raising@bible.or.jp ホームページ: <https://www.bible.or.jp/>

◆郵便振替 00160-2-18410 ◆銀行振込 三井住友銀行 京橋支店(普通) 6552744

※ニュースレターへのお便り、お問い合わせも上記までお願いします。